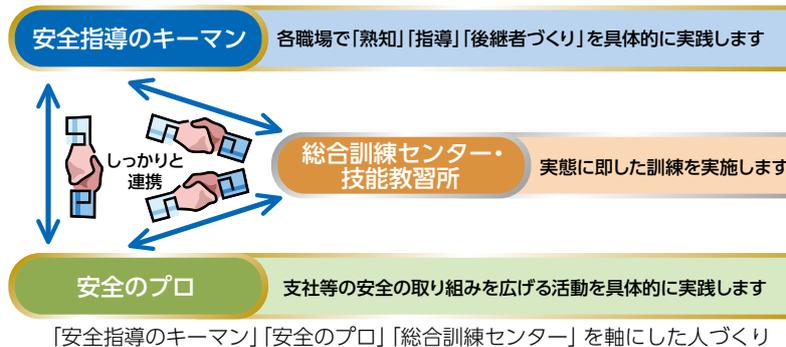


# 安全マネジメント体制を磨く

## 安全を担う人づくり

安全を担う人を育て、安全の技術・知識等を継承していきます。さらに、事故の恐ろしさを深く学ぶ取り組みやヒューマンエラーの極小化に取り組みます。

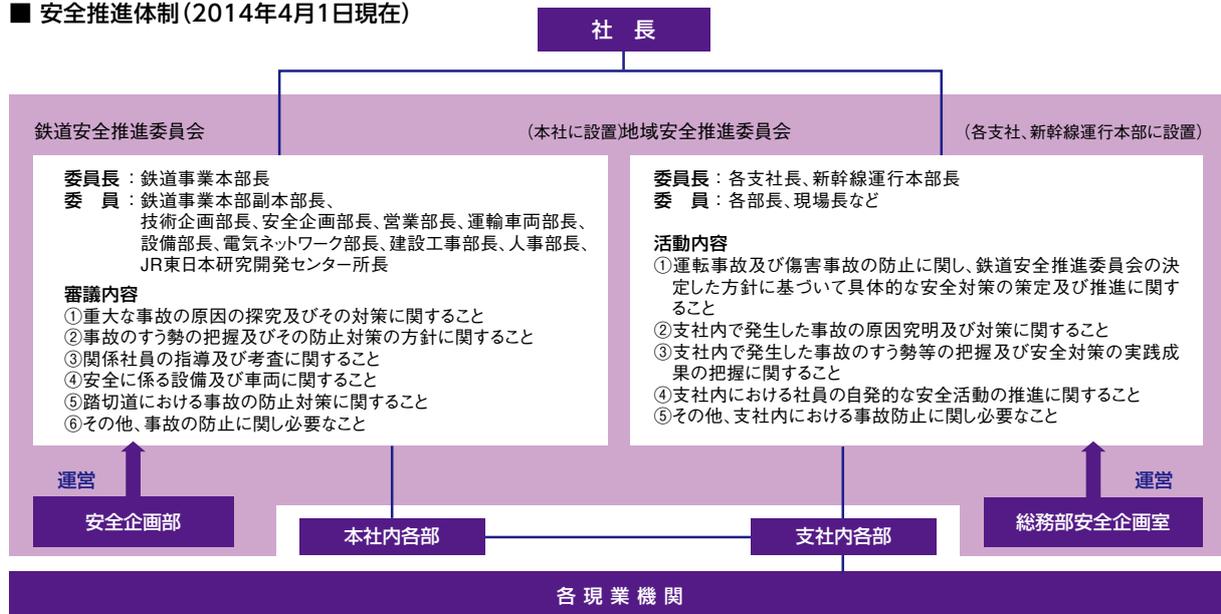
### ■ 安全マネジメント体制



## 安全推進委員会

鉄道事業の安全推進体制として、鉄道事業本部長を委員長とする「鉄道安全推進委員会」を本社に設置し、事故の対策や事故防止に関する基本方針を審議し、安全施策を推進しています。また、各支社と新幹線運行本部には、各支社長・運行本部長を委員長とする「地域安全推進委員会」を設置し、支社内の事故原因究明や事故防止対策、安全活動の推進等を行っているほか、鉄道安全推進委員会と連携して具体的な対策を実施しています。

### ■ 安全推進体制 (2014年4月1日現在)



## 本社安全キャラバン

社長をはじめ本社幹部が現業機関に足を運び、現場第一線の社員(パートナー会社・協力会社含む)と直接議論を行う「本社安全キャラバン」を、年1回実施しています。

2013年度は「一つひとつの基本作業を確実に実施し、お客さま・社員の命を守る～基本作業を確実に行うために何が必要か、これまでの取り組みの振り返りとともに考える～」をテーマにして、本社幹部が夜間作業等に立会ったうえで現場第一線社員と真剣に議論を行い、基本作業を確実に行うために現業機関で苦勞していることや悩みなどを抽出しました。

実施結果を踏まえ、社員一人ひとりが自ら納得して行動することを通じ、お客さま・社員の命を守るための具体的な取り組みを導きました。

## グループ会社などとの連携

2004年度に、当社と列車運行に直接影響を及ぼす作業を行うグループ会社・パートナー会社が一体となって安全を推進していく体制「JES-Net(JR東日本安全ネットワーク)」を構築しました。

2014年4月1日現在で、JES-Netは36社になりました。JES-Net各社における安全の取り組みについて意見交換や作業立会で確認する「セーフティーレビュー」を年1回実施しています。このセーフティーレビューにおいては、各社の良い取り組みを把握するとともに、参考となるような他社の良い取り組み事例を紹介し、グループ全体でのさらなる安全レベルの向上に取り組んでいます。



セーフティーレビュー

## 安全に関する教育・訓練

各支社の「総合訓練センター」では、事故予防型シミュレータ等を活用したスキルアップ訓練を定期的に行っています。「JR東日本総合研修センター」(福島県白河市)では、人材開発、知識・技術力の向上研修のほか、運転士や車掌の養成を行っています。また、過去の事故を教訓とし、安全の尊さを学ぶことのできる施設として、同センター内に「事故の歴史展示館」を設けています。2014年度は、事故に遭遇または被災した車両等の現物を保管する車両保存館を新設し、事故の悲惨さ、恐ろしさを深く学ぶ取り組みを推進します。



事故の歴史展示館

### 安全の語り部(経験の伝承者)

2009年度に、安全についての知識が豊富で応用力のあるOB社員を「安全の語り部(経験の伝承者)」として組織化しました。現在、8名の語り部による「安全の語り部セミナー」を本社・支社で開催し、これまでの経験や技術を次代に伝えていきます。



8名の安全の語り部

### 鉄道安全シンポジウム

「一人ひとりが力を伸ばし、チームワークで創る安全」をテーマに約430名が参加し、安全ビジョン2013の振り返りとグループ安全計画2018を発表し、グループ安全計画2018を確実に実行するための方向性を示しました。



第22回鉄道安全シンポジウム